

特集：次世代の人材を育成するために変革する教育システム

質問応答手法を用いたメッセージ伝達のための 物語構造導出支援システム

芦田 淳*, 徳丸 正孝**, 小尻 智子**

Message-Based Story Derivation Support System Using Question-Answering Method

Atsushi ASHIDA*, Masataka TOKUMARU**, Tomoko KOJIRI**

1. はじめに

近年、経営戦略を他者に納得させるためのストーリーテリング⁽¹⁾など、さまざまな場面で物語形式での情報伝達や説得の有効性が述べられている。しかし、伝えたい内容(メッセージ)を物語形式で伝えることが注目されている反面、メッセージを伝えることのできる物語の作成方法を教授する場はみられない。

初等中等教育における国語科教育では書く内容が存在する対象を用いて文章を執筆させる授業実践が存在する。それらでは「文章を書く」という経験をさせることを目的としたものや、特定の文章構造を理解させることを意図しているものが多い。例えば、日記の作成は、体験したことを文章として表出させる経験を与えている。論説文の作成では、主張とそれを支える事実を論理関係が伝わる順番や接続詞を用いて文章化させることで、論理構造を伝えることのできる文章の特徴への理解を促している。一方、物語では文章化する内容自体を発想する必要があるため、文章を書くという経験を与える目的としては負荷が高い。また、物語の展開にはさまざまな種類が存在し、構造が定まっているわけではない。そのため、物語を対象とした実践もほとんどなされていない。

物語の作成を授業に取り入れている数少ない事例として、山本らは物語の中で問題とその解決方法が記述

されている物語があることに着目し、そのような種類の物語から、問題と解決方法、解決方法に至る出来事を抽出させる授業実践を介して、物語の構造の理解を促進している⁽²⁾。この手法では、問題と解決方法を基軸として書かれた既存の物語の構造は理解できるが、問題と解決方法以外にどのような構成要素が必要で、それらをどのように作成すればよいかはわからない。

メッセージを伝えることのできる物語は、物語を読んだ結果、伝えたいメッセージが読み取れるものである。そのためには、メッセージを伝えられる内容が、伝えやすい順番で語られている必要がある。メッセージを伝えるような物語を作成するためには、メッセージを伝えることのできる物語の構造を明らかにし、そのような構造の作成が支援できればよい。

文章の執筆には、おおまかな構造を考え、その後構造を文章化するというプロセスが多く取られ⁽²⁾⁽³⁾、これは物語でも同様である。本研究ではまず物語の構造を対象とし、メッセージを伝えることのできる物語の構造の作成支援を目的とする。メッセージを伝えることのできる物語の構造とはどのような構造か、そのような物語の構造を作成するための支援方法は何か、という問いをたてる。それらの問いに対し、メッセージを伝えることのできる物語の構造とその作成方法を支援するシステムを提案する。提案したシステムを用いて構造を作成してもらい、作者の構造作成過程や作成した構造

* 関西大学大学院理工学研究科 (Graduate School of Science and Engineering, Kansai University)

** 関西大学システム理工学部 (Faculty of Engineering Science, Kansai University)

受付日: 2022年6月15日; 再受付日: 2022年10月25日; 採録日: 2022年11月21日